

Business Gallery

第328回

(株) 清水精機

—— 精密板金加工はおまかせください



「都市型のきれいな工場を目指します」と話す清水社長

今回紹介する(株)清水精機は1983年(昭和58年)3月の創業以来、35年以上の業歴を数える老舗の精密板金加工会社。設立当初は放送機器、写真現像・プリント機器、アミューズメント機器が主だったが、近年は医療機器、食品機械、分析機器、福祉機器、駅務機器などのフレームや土台・脚部品の製作を手がけている。

「業務用テレビカメラのレンズ周りの精密板金加工からスタートし、少しずつ扱い製品を増やしてきました。近年は内視鏡や麻酔システムなど医療機器分野に注力しており、現在では売り上げ構成比の約50%を占めています。医療機器は世界の市場規模が30兆円、日本は3兆円といわれ、今後も需要が伸びていく有力分野だからです」と話すのは2代目の清水貴博社長。

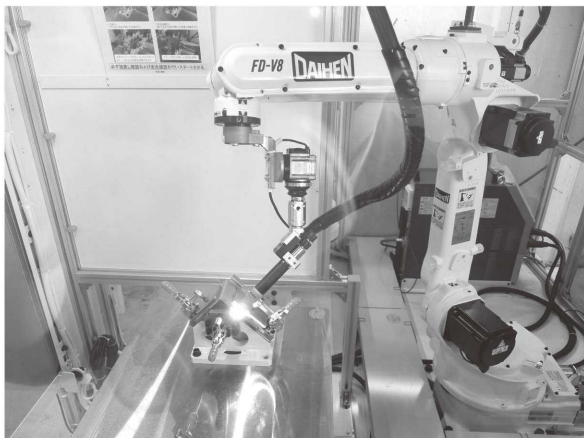
清水貴博社長は大手金属加工会社グループに勤務、FAソフト事業部でデジタル板金工場の普及を促進してきた。2000年に当社に入社、父である先代・清水亘社長(当時)をサポートし経営に携わるほか、営業活動にも奔走してきた。

2015年8月に社長に就任し、自社工場のデジタル化による製品情報と加工情報の一元管理、工程管理の徹底など、次々に社内改革を進めていった。

「弊社は、待ちの姿勢ではなく、“仕事を取りに行く”ことを信条としており、以前から公共展によく参加しています。東京ビッグサイトで開催される『産業交流展』や『新価値創造展』などに毎年出展するほか、医療機器の展示会『Medtec Japan』にも出展しました。展示会では営業マンだけでなく、工場モノづくりをしている社員にもブースに入ってもらい、直接お客様とふれあうことでニーズに耳を傾けてもらっています。また、さいたま市で開催された『さいたま市メディカルエンジニアリング講座』にも初回から参加、こうした機会を通じて医療関連企業や医師、医療従事者との交流を持つことで、機器のニーズを探っています。まずは行動あるべきです」(清水社長)。

こうしてさまざまな分野の企業と接することで受注製品の幅を広げてきた。これに伴い他品種少量、変種変量、短納期など顧客のさまざまなニーズに応えるべく、設備投資も充実させてきたが、今年には人工透析機器の大口受注に対応すべく、ついに溶接ロボットを導入、月産数千台を生産している。

「これからも埼玉を拠点にモノづくりをしていきます。バランスよく、長く続く会社を目指したい」と清水社長は熱く語る。



ダイヘンのアーク溶接ロボット「FD-V8」

企業概要

(株) 清水精機

企業コード：270435930

法人番号：4030001045855

所在地：新座市中野1-5-10

代表者：清水 貴博氏

設立：1984年(昭和59年)6月

年売上高：約4億7200万円(2018年4月期)

URL：<http://shimizuseiki.co.jp/>